

市内初 パソコンを使って「聞こえ」を支援  
パソコン要約筆記サークルサマリー丹



「聞こえにくい」を支援する  
キーワードは「チームワーク」

聴覚に障がいのある人などに、文字で情報を伝える「要約筆記」。昨年6月に発足した「パソコン要約筆記サークルサマリー丹」は、パソコンを使った要約筆記を行っています。

メンバーの皆さんに、活動の内容について語っていただきました。

障がい福祉課（春日庁舎内） ☎ 74 - 0222  
〒74 - 3005

文字で情報を伝える

講演会などで出演者が話したことを要約し、拍手やブザーなど会場で聞こえる音も含めて文字にして伝えることを要約筆記といいます。平成28年の障害者差別解消法の施行により、障がい者への合理的配慮の提供が必要になり、要約筆記の重要性も高まりました。

全国的にパソコンを使った要約筆記が増えてきたことから、手書きの要約筆記に加えて、平成29年から丹波市でもパソコン要約筆記に取り組み始めました。

講座を受講して要約筆記者に

パソコン要約筆記サークルサマリー丹は、市障がい福祉課主催のパソコン要約筆記者養成講座を受講した8人で結成されました。講座は2年間で30回開催され、聴覚障害の基礎知識をはじめ、文章の要約技術、日本語表記、専用ソフトの使い方などを学びました。

講座修了後、合格率2割の全国統一要約筆記者認定試験に挑戦し、メンバーの半分が合格することができました。合格者は「要約筆記者」として登録され、現在様々な講演会などで活動しています。

4人1組で役割を分担

パソコン要約筆記は「速く・正しく・読みやすく」の三原則に基づき、要約した内容をパソコンに入力してスクリーンに映します。4人1組でメイン・サブ・訂正・待機の役割を交代で担い、講演会の間、途切れることなく文字で情報を伝えます。

聞き慣れない単語などは漢字が分からない場合があるので、話題に出てきそうな言葉を事前に調べて本番に備えます。まだまだ経験が浅いので、ハプニングの対応など、毎回本番で新しいことを学んでいます。

支援の輪を広げたい

講演会で要約筆記をした後、一般の参加者から「聞き逃したことを文字で振り返ることができてよかった。文字で見ると理解しやすい」と言われたことがあります。そんな時、私たちの活動がみんなの助けになっていることが実感でき、やりがいを感じます。

サークルは、不定期で月2回集まり、夜の7時半から2時間、楽しく練習しています。今後も練習を重ね、聴覚に障がいのある人の社会参加を支援できるよう活動していきたいと思っています。また、一緒に活動する仲間も増えたらいいと思います。